



地域×教科 「商業」 × RESAS

～岡山県は果物王国なのか？～

岡山県立倉敷商業高等学校 教諭 川崎 好美
(RESAS 専門委員)

RESAS for Teachers より

1. RESAS 活用の動機

RESAS とは、地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房(まち・ひと・しごと創生本部事務局)が提供している地域経済分析システムであり、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステムである。これを授業で活用する理由は、「地域経済がわかる」からである。新学習指導要領の商業科の目標には「ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成」と示されており、地域経済の理解は必須である。

私はジーンズ発祥の地、繊維のまち児島(岡山県倉敷市)に住んでいる。周辺には織物、縫製加工の繊維工場が立ち並んでおり、親しい知人の多くが繊維関係の事業所に勤務している。立ち話では近所の縫製会社が全国区のテレビに出演するなど、生活の中では、ぼんやりしたものであった。

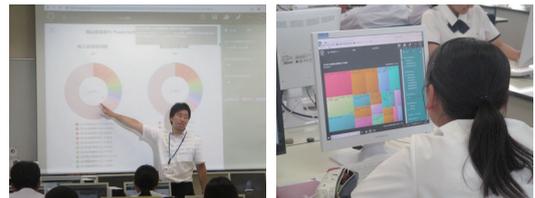
RESAS については、ある講演会で知った。繊維のまちの数字は、みごとに肌感覚とリンクした。RESAS の第一印象は、愛想のない真っ黒画面のトップページ。しかし、大小の色画用紙がパラパラと変わりながら、構造変化を表現し、モノや人の流れを示す曲線の噴水のような動きには、親しみがわいた。

全国、県、市の出荷額、事業所数、常用従業員数、付加価値額、海外進出数などが示され、ぼんやり感じていたことが、リアルな数字となる。これは商業学科で学ぶ生徒には、有効である！と確信した瞬間であった。(2017)

2. RESAS 活用の実際

(1) 探究スキルとしての活用 1年生(2019年度)

本校では、「総合的な探究の時間」の中に「地域を学ぶ」活動を設定している。根拠に基づいた思考・意見を構成していくための探究スキルを習得させることを目指して RESAS に触れさせている。8クラス320名に習得をさせるには、教室や教員間の調整なども必要である。生徒は、夏季休業中に個人探究に取り組み、2学期早々のクラス発表会に臨む。その後、グループ編成をし、協働学習に取り組み。こうした探究の成果物には、データに基づく根拠ある情報を取り上げるよう指導している。



▲「総合的な探究の時間」地域理解のためのRESAS活用

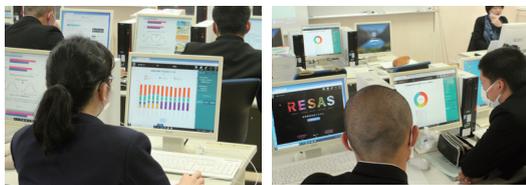
(2) 分析・考察場面での RESAS 活用 (2019年度)

3年生 国際経済科「ビジネス経済」13名(単元「経済成長」指導項目「経済成長の要因」)では、生産年齢人口、少子高齢化などの具体的な要素を把握させるため、人口マップを活用した。また、地域産業を理解させるために、繊維産業に着目したレポートを作成させた。RESAS 活用により、生産額に着眼する者もあれば、従業員数や事業所数などに着眼する生徒もおり、様々であった。

(3) 「課題研究」地域経済探究 30名(2020年度)

本講座では、RESAS 活用を入り口とした地域

探究に取り組み始めた。第1時間目となる授業を実施したのち、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業となった。



▲ 2020.4.17 「課題研究」第1時間目

3. 「探Q! RESAS」 RESAS 活用応援サイト

休業中の生徒の自宅学習支援として、RESAS 活用応援サイトを制作し、運営している。本校生徒を対象に制作している Web サイトでありながらも、RESAS 活用にチャレンジするすべての高校生に向けたサイトである。RESAS の基本操作、経済産業省編集の操作動画なども紹介している。RESAS そのものだけでなく、ビッグデータを取り扱う視点や楽しさ、探究への動機づけとなる情報発信を目指している。

「探Q! RESAS」 RESAS 活用応援サイトはこちら ▶



休校中にサイトを活用した課題に取り組んだ。各科目の課題と3学年ともに課した課題は、以下のとおりである。

2年生「広告と販売促進」106人

生活定点 1992-2018 (博報堂生活総合研究所) のサイトから関心を持ったデータを選び、考えを述べる。

3年生「ビジネス経済」28人

景気ウォッチャー調査 (内閣府) を閲覧し、関

心を持った業種について調べ、考えを述べる。

3年生「課題研究：地域経済探究」30人

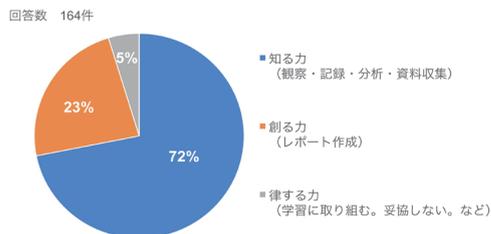
地域経済とコロナ禍について、記事を参考に考えを述べる。

3学年ともに RESAS を活用し、岡山県や倉敷市について理解したことをまとめる課題も出している。

休校中課題 自分の感覚に近いものを1つ選んでください



課題を通じて大切だなと思ったことを1つ選んでください



4. 商業科目での RESAS 活用

RESAS メインメニューの人口マップ [人口構成], 観光マップ [目的地分析], まちづくりマップ [From-to 分析] は、導入として非常に取り組みやすいが、地域産業を理解するには、産業構造マップを確実に押さえたい。地域の全産業・農業・製造業・小売卸売 (消費) ・林業・水産業の5業種から小分類まで、細かく業種の動向がはじき出され、生産出荷額、従業員数、事業所推移、付加価値額などを把握できる。

「ビジネス経済」では、地域経済循環マップを活用できる。指導項目にもある生産・分配・支出の三側面から見た GDP は同じ金額になる「三面等価」が、ビジュアルとしてわかる。また、すべての辻褄が合うように、数字や図表が動く。経済がいかにか複雑で、多様なつながりの中で成立しているかがよくわかり、他地域と比較することで、全体像をつかむことができるという RESAS の根幹となるデータである。

「財務会計Ⅰ」の財務諸表分析で活用できるのは、企業活動マップにある中小・小規模企業財務比較のレーダーチャートである。「稼ぐ力」「経営健全力」「雇う力」「伸びる力」「持続する力」を、付加価値額や営業利益率、労働生産性、売上利益率など多様な指標を組み合わせ、県内の業種、他県との比較などができる奥の深いページである。

新設科目「観光ビジネス」においては、観光マップの宿泊施設のページから、ビジネスホテルやシティホテル、旅館などの種類を選択し、客室稼働率の推移を追っていくと見えてくるものがある。

商業科の各科目で活用の可能性のある RESAS マップを科目ごとに資料へまとめたので、参考にさせていただけると幸いです。

科目ごとの資料はこちら ▶



5. RESAS 公式ページ モデル授業紹介サイト

昨年度、RESAS を所管している内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局は、高校教育での活用に動き始め、RESAS 副教材作成検討委員会を設けた。「地理総合」「国語」「情報」「商業」「総合的な探究の時間」の指導案・教材・ワークシートなどをパッケージとして、「RESAS for Teachers」を2020年3月末 RESAS 公式ページに公開した。中でも紹介したい教材は、[総合的な探究の時間] シリーズにある「地方のチェンジ・メイカー育成プログラム」で、地歴・公民科教諭による作成教材である。シンキングツールを有効活用して探究をナビゲートし、論点整理をしながら物事の本質に近づいていく有用な教材であり、ビジネスの視点を加えれば、商業学科で有効活用ができると考えている。

RESAS for Teachers「地方のチェンジ・メイカー育成プログラム」はこちら ▶



6. ビッグデータ活用授業に係る岡山県高等学校商業教育協会の動き

(1) マーケティング分野研究協議会 (2019年度)

『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導及び評価方法の研究』をテーマに開催された。RESAS の活用スキルを確実なものにするため、

操作実習も取り入れた。当研究委員会は、新学習指導要領の新設科目である「観光ビジネス」を3年にわたり研究している。授業展開、評価方法など議論を重ね、ソフトランディングを図っている。



▲ 研究協議会 RESAS 研修の様子

(2) 継続研修

継続研修は、教員の指導力向上や最新の教育技術の定着を目的として実施されている。2020年度は、「ビッグデータを活用した授業デザイン『マーケティング』『観光ビジネス』等での活用」をテーマに、授業研究、教材作成に取り掛かり、県下の商業学科へ広く還元する。マーケティング分野専門の指導教諭のもとに、5名の教員が志願し、実践的で効果的な授業の研究を進めている。

7. 商業学科が目指すデータ活用能力

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休業要請、営業自粛による経済停滞は、景気回復までの道のりが遠いことを示す。それでも事業を進めなければならない。感染症により大打撃を受けた後の社会では、限られた経営資源を無駄にすることなく、ますますの効率化や合理化が求められる。

生徒には正しい現状認識をし、正しい道を選択する力を少しでも身につけさせて、社会に送り出したい。

自分が関係する業務の数字に関心を持ち、冷静に眺め、物事を把握する態度は、「生きる力」にも通じることは明らかである。ビジネスのフィールドである地域の現状を的確に把握し、進むにせよ、退くにせよ、最適な意思決定をする力は、雇用者や組織を守ることにつながる。

新学習指導要領では「考察」や「討論」を行う学習活動を促している。地域のリアルなデータを題材に取り組む学習は、教科「商業」を通して身

につけさせたい資質・能力を育てるためにも、効果があると考えている。そのツールが RESAS である。

8. RESAS ワークショップ開催 (2020.6.13)

本校を会場に RESAS ワークショップを開催した。学校関係者を中心に市役所職員、民間企業の方々が 34 名参加した RESAS 活用の勉強会である。RESAS を所管する内閣官房まち・ひと・しごと創生本部ビッグデータチームよりオンラインでの RESAS 説明、中国経済産業局による出前講座の案内、教育現場・行政での活用事例紹介、コロナ禍による痛みを伴った地域経済の実態データの紹介など、多様な視点や視座を共有した。



▲ RESAS ワークショップの様子

9. 結びに

専門学科を見渡すと、農業の先生は米を、家庭科の先生はウエディングドレスを作る、工業の先生は前職が大工、看護の先生は前職が看護師であった。みな教える者が確かな技術を持っている。生徒へ語られる厳しくも温かい言葉は、職業人としての経験と覚悟に裏打ちされたものである。一方で自分は、ビジネス教育をしているというが、起業をしたこともなければ、納品書の 1 枚も書いたことはない。確定申告の経験はあるが、親切的な職員の方に全て教えてもらい、税務署に行ったことしか記憶がない。教室で教えていることとこれまで経験したことが乖離している。だからこそ、持つべきものは「想像力」と「言葉」である。Society5.0 とは何か。AI と共働するとはどういうことか。SDGs とは何か。コロナの後の世の中は、価値観はどう変わるのか。専門学科の商業での学びは、どうあればよいのか。「想像力」を働かせるしかない。会計処理や情報処理を通して整

理された数字やデータを、意思決定や軌道修正につなぐ「言葉」を獲得する。経営者の話に耳を傾け、現場に向かう、あらゆる職種に興味関心を持つ。「想像力」と「言葉」を鍛え、ビジネス教育に携わることが最低限の責務であると思っている。ビジネスのフィールドとなる地域にとことんこだわり、理解できる実学としてのカリキュラムが商業科にはある。それが、専門学科商業の強みであり、優位性である。





岡山県は、「果物王国」と言われる。RESAS の産業構造マップから農業の構造で岡山県の果実(果物)産出額を見ると、2017 年は、280 億円である。それに対し、青森県は 790 億円、山形県は 705 億円、山梨県は 595 億円、愛媛県は 537 億円である。岡山県は何を根拠に「果物王国」と称されるのか。県の農林水産行政に長く携わっている知人に話を聞いた。桃も、ぶどうも、長い年月をかけて試行錯誤しながら品種改良を重ね、今日の生産者に蓄積された卓抜した栽培技術が根底にあるものだという。首都圏や海外での地道なプロモーション活動、地域の名高い果物を選択と集中によって、消費者へ提供する。こうして特産物「白桃」「マスカット」は、マーケットで受け入れられ、その価値を高めている。Google Trends で「岡山」「桃」を検索すると、7 月の食べ頃と見事に相関があることがわかる。桃の産地である赤磐市には、時期的には 7 - 8 月外国人観光客の訪問が圧倒的に増加する。SNS 時代のマーケティングは、AIDMA 理論から AISAS 理論へ移り変わっている。A(注意)I(興味)S(検索)A(行動)S(共有)の頭文字であり、S(検索)の後の A までは、果てしなく遠い。生産者が愛情を持って出荷した桃やぶどうをマーケットに橋渡しするのは、「流通」の機能である。生産技術には敬意を、その産物には正当な対価を払う。流通に乗せ、マーケットに送り出し、消費者の手元に届けるのは、「商業」が果たすべき役割である。「高品質」を「ブランド」へ変換できるのは、「マーケティング力」である。